

事業計画書

①団体名	倉敷ユネスコ協会
②事業名	備中とと道の可能性を探るアウトドア事業
③テーマ区分	番号: 1 〇
④補助回数	<p>*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>1回目 <input type="checkbox"/>2回目</p>
⑤現状及び課題	<p>■備中とと道とは 「備中とと道」とは、明治から昭和初期にかけ、瀬戸内海沿岸の笠岡市金浦から新鮮な魚を吉備高原山中の吹屋まで、屈強な魚仲仕(うおなかせ)が夜掛けのリレー方式で運んだ南北約60kmにわたる山道です。当然、近代化によりこの道は使命を終え、森の中に放置されていました。</p> <p>■備中とと道の発掘と経緯・現在の活動 「昔、笠岡から40kg程の魚を天秤棒に担いで一晩で吹屋まで届けていたような」と聞いて育った方々が、笠岡市、矢掛町、井原市美星町、高梁市成羽町、高梁市吹屋に大勢おいででした。NPO法人フォレストフォーピープル岡山の前理事小見山節夫(高梁市)の呼びかけに地元の個人らによる作業グループが約10年かけて古道を掘り起こすという膨大な作業を行いました。 2016年に沿道の地元有志15名が自発的に集い「備中とと道トレイル推進協議会」を設立し、2017年に1本の「とと道」を同定しました。 コースが特定されると地元の多くの方から「備中とと道を歩きたい」との要望が寄せられ、2018年1月以来毎年トレイルウォーク大会を実施、今に至るまで42回、800名を超える方が歩かれました。 「備中とと道トレイル推進協議会」はこの復元した道を「歩く遺産」として後世に残すため多様な活動を展開しています。定期的な草刈り、沿道の歴史、文化、自然に触れるトレイルウォーク大会の開催や地元の学校での出前授業、道標整備、ガイドブックの発行等、沿道地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、次世代へ継承しています。</p> <p>■課題 「備中とと道」の最大の価値は、ボトムアップで4市町を跨いで住民が古道を掘り起こしたことに尽きます。そしてその価値は2024年に国土交通省 中国地方整備局「夢街道ルネッサンス」と日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」の認定を受けたことで証明されました。</p> <p>① 協議会の高齢化 しかしながら、推進協議会は平均年齢が70歳を超え高齢化が進んでいます。立ち上げ当初、10年は頑張ろうと初めた会も、2026年で10年になります。活動もとと道の掘り起こしで完結しており、組織的に若返る傾向が弱いのが課題です。</p> <p>② トレイルウォークの限界 また、これまで13～16kmの区間のトレイルウォークを繰り返してきましたが、定員割れすることも多く、今一つ参加者が広がらず、その価値が訴求できていません。これまでトレイルウォークに参加した800名の参加者は推進協議会の関係者の枠をあまり超えておらず、50歳以上の年配者のリピーターに傾向していたこと、また、トレイルウォークの発生の経緯と会のマンパワーの限界もあり、全線を通したウォークは2025年の11月まで行ったことがなく、備中とと道の存在や価値の訴求も関係者を大きく超えて広がることはありませんでした。 さらに彼らが掘り起こした地域の歴史・文化的価値は、若者の興味を引くには世代間ギャップがあります。 倉敷ユネスコ協会が推薦し、認定された「プロジェクト未来遺産」の認定運動は、地域の“たからもの”を未来の子どもたちに伝えたい、という想いの下、未来へと継承していくための地道な努力を続ける“人”と“活動”に光をあて、応援するものです。 その“たからもの”＝「価値」をいかに次世代へ継承できるかが大きな課題となっています。まずは、事業訴求により広い世代へその価値を広げながら、その継承方法を具体的に模索する必要があります。</p>

	<p>■2025年11月開催ユース・トレイルウォークから見たもの 2025年11月24日に倉敷ユネスコ協会が主催して、全行程を通してとと道を知る「備中とと道ユース・トレイルウォーク」を開催しました。メンバーは小学生・中学生・大学生・保護者・トレイルラン競技者・トライアスロン競技者・ヒルクライム競技者・トレイルラン/マラニック/シティロゲイニングなどを企画する企業やとと道周辺で観光事業を行う方々と企画・運営スタッフの30名ほどです。非常に満足度が好評で、事業価値の訴求には全行程を行き来する工程を楽しむことが重要だということに気づきました。また参加者へのアンケート調査の自由記述をテキストマイニング分析から課題を抽出しました。</p> <p>■今後の活用・発展に向けた示唆</p> <p>1) 体験型プログラムの拡張 参加者からは、ストーリー性のある体験プログラムへの期待が大きい 例：2日間の「備中とと道疑似体験プログラム」 《笠岡の海で魚を獲る》→ バス＋ウォークで北上 → 《吹屋で納品》→ 調理・会食・振り返り → “魚を運ぶ”歴史を体験できる観光資源化が可能</p> <p>2) 子ども・ユース向け企画の強化 ①宝探しイベント ②歴史学習＋短縮コース ③世代間交流型ウォーク → 教育的価値が高く、地域学習としての活用が期待される</p> <p>3) トレイルランとの連携 ①トレラン関係者の参加が好評 ②大会開催の可能性 ③地域経済循環の創出 → スポーツツーリズムとしての発展可能性</p> <p>4) 広報の強化 ①「笠岡在住でも知らなかった」という声が複数 ②鯖街道のような全国的ブランド化を望む声も → ストーリー性を活かした広報戦略が必要</p> <p>5) 総合的な示唆 ・「備中とと道」は「歴史・文化・自然・体験」を統合した地域資源 ・トレイルウォークにはガイドの質が価値を最大化している ・事前説明・時間配分・交流設計に改善余地 ・教育・観光・スポーツの複合的活用が可能 ・広報強化により地域外からの誘客が期待できる</p>
<p>⑥事業目的</p>	<p>■第一ターゲットとする担い手の育成 = トレイルラン競技者 ■60kmを走ることへの原点回帰 = 一夜にして運んだこと ■旅人を接待した実績のある四堂 = 地元住民との交流</p> <p>備中とと道の価値を次世代へ継承するために、訴求力のあるアウトドア・スポーツ（トレニック）を活用し備中とと道を訴求すると共に、様々なアウトドア・スポーツやレジャー、フィールドワークの活用により、備中とと道を継承できる若い世代の発掘と具体的な継承活動の可能性を探ります。</p> <p>■備中とと道の価値とは 「備中とと道」ブランドストーリーの提案 かつて、瀬戸内の海で獲れた魚は、山を越え、谷を抜け、吹屋の町へと運ばれていた。 その道は、ただの物流ルートではなく、人々の暮らしと願いをつなぐ生命線だった。険しい山道を越えるたび、魚を運ぶ人々は、季節の移ろいを感じ、土地の匂いを吸い込み、地域の人々と出会いながら歩いた。 その足跡は、やがて 備中の文化と経済を支える見えない血流となり、今も地域の記憶として息づいている。 現代の私たちが歩く「備中とと道」は、単なる古道ではない。 歴史を“知る”道であり、自然を“感じる”道であり、人の営みを“想う”道。そして、歩く人それぞれが、自分のペースで物語を見つけていく道でもある。窓坂から見える景色に心を奪われる人もいれば、ガイドの語る歴史に耳を傾ける人もいる。 子どもたちは冒険のように歩き、年配の方は懐かしさを胸に歩く。</p>

	<p>歩く人が変われば、見える世界も変わる。 備中とと道は、時代を越えて人をつなぐ“生きた未来遺産”だ。 今、私たちはこの道を未来へ手渡そうとしている。 歩くことで歴史を守り、知ることによって地域を支え、楽しむことで次の世代へつないでいく。 「備中とと道」は、過去から未来へ続く、備中の物語そのもの。 あなたも、この道の一部になってみませんか</p>
<p>⑦事業内容</p>	<p>■備中とと道トレニック2026(名称仮)の開催 日本で、唯一トレイルラン/マラニック/シティロゲイニングなどを企画する企業(株)イタダキと連携し全国から人を呼べる競技を開催し、事業訴求を図ります。 3年後に自立・開催できることを目指します。 2026年度：大会開催と課題の確認と目指す姿の設定 ・大会後のフィードバック会議にユース参加者を招き、広く意見を求め、次年度の企画立案に活かすことで、備中とと道の価値を継承する次世代の育成につなげます。 ・コースの一部を使ったキッズもしくは親子ランコースを検討し実施する予定です。それにより、小学生とその保護者が「とと道」に親しむ入口をつくります。 2027年度：地元住民や行政・企業、近隣の大学を巻き込んだ大会の開催とトレニックを補完するミニイベントの立ち上げ 2028年度：様々なイベントの自立化</p> <p>■自立への道の模索 地元住民・地元行政・地元企業・地元教育機関との連携 毎年開催されるイベントとして成り立つよう到来年、再来年以降の協力を求めその可能性を探ります。</p> <p>■とと道の整備 トレニックを開催することでとと道利用上の課題を明確にし、改善・整備する施策を検討します。</p> <p>■とと道の価値の訴求【2027年目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とと道の価値を伝える全行程を通じたトレイルウォークを定例化します。 ・トレニックでは、当日のエイドステーションに地元ガイドを配置し、とと道の歴史・文化を口頭で伝える仕組みを設けます。 ・コース上の道標・看板にQRコードを設置し、スマートフォンで歴史情報を参照できるコンテンツを制作します。 ・ミニイベントとして、推進協議会が主導するコース整備も兼ねた草刈り活動への参加募集を行い、維持管理を通じた地元住民との協働の場を設けます。 ・トレニックへの参加対象として、トレイルランナー（30～50代）に加え、高校・大学の山岳部や陸上部への参加呼びかけや、運営体験としてボランティア参加を依頼しようと考えています。 <p>■若い世代を巻き込む発展的活動を模索 子供や若者の参加を求める価値と可能性と教育に資する新たな価値の創出の可能性を探ります。</p> <p>① 全国から参加者を誘致する「備中とと道トレニック」の開催 ② 「笠岡一吹屋 備中とと道トレイルウォーク」開催の可能性を探る ③ 子どもも参加できるトレイルラン大会開催の可能性を探る ④ 地元行政との連携の可能性を探る 4-1) 4市町連携協働で、とと道の価値を伝える全行程を通じたトレイルウォークを年2回(春・秋)定例化の可能性を探ります。 4-2) 4市町が連携してトレニックを開催できることの可能性を探ります。 ⑤ 地元教育機関との連携の可能性を探る 「とと道」と「とと道トレニック」を4市町の産官学のプラットフォームとして活用できる可能性を探る ・地場産品を活用したエイドでのメニュー開発</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・エイドでのランナーのケア 5-1) 新見公立短期大学(看護学科)、吉備国際大学(スポーツ社会学科)、岡山県立大学(看護学科/栄養学科)、くらしき作陽大学(栄養学科)、倉敷芸術科学大学(健康科学科)などへのエイドを活用した大会ボランティアやフィールドワーク、自治体・企業と連携した地域貢献プロジェクトの呼びかけを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・地場産品を活用したエイドでのメニュー開発 ・エイドでのランナーのケアなど ・2027年度以降の共同研究・ESD連携の検討 5-2) 備中エリアの高校へ、ユネスコスクールや探求学習の窓口に学生ボランティアや自治体・企業との連携プロジェクトの呼びかけを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・地場産品を活用したエイドでのメニュー開発 ・とと道の事業価値を小中学校へ訴求するためのツール開発など ・高校へは「聴き書き」の手法で、推進協議会のガイドのトークをアーカイブ化してくれる高校を模索。 ・体育や総合学習との連携でトレニック見学または部分参加を提案。 ・地域学習「備中とと道授業」の実施提案(推進協議会ガイドを派遣)など 5-3) 地元の小学校や中学校で、すでにとと道を活用した校外学習や総合的な学習(探究)の時間などを行っている事例を、他の学校へ紹介し、認知を広げるツールの作成を検討します。 <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会と連携した出前授業を実施を提案 ・2026年度内に1校以上でとと道を題材にしたESD授業を実施を提案 ・2026年11月以降のフィードバック会議に教育機関担当者を1名以上参加させることを目標とする <p>⑥ 地元企業との連携の可能性を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とと道トレニックへの後援・協賛を募ります。 対象: 宿泊施設・観光企業・老舗企業・大手企業など ・とと道トレニックの冠スポンサーとなりえる企業の可能性を探ります。 まず、商工会議所・商工会へのアプローチから始めます。 <p>⑦ シンプルに「とと道」と「とと道トレニック」の価値を伝えるツール検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビや地元メディアへのアプローチ <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 順延・延期 (警報以外雨天決行・開催日は5/11(月)第1回実行委員会にて決定)</p>
<p>⑧事業の条件及びアピールポイント</p>	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>これまで13～16kmの区間のトレイルウォークしか開催できていませんでした。トレニックの開催は注目され、事業訴求の価値があります。競技だけでなく、考えられる様々な世代、様々な嗜好に合わせた資源活用の可能性を試すことも行います。</p> <p>備中地域への波及効果</p> <p>備中とと道は笠岡市・矢掛町・井原市美星町・高梁市成羽町の4市町が連携する企画であり、連携する可能性につながっていきます。 また、神崎宣武氏が言うように、備中にはとと道以外に様々な道があり、備中とと道トレニックがきっかけになり様々な道を掘り起こすことで、それが新たなビジネスや地域活性化につながる可能性を持っています。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <p>倉敷ユネスコ協会は備中とと道を「プロジェクト未来遺産」に推薦した責任があります。 ESDを軸とする活動を行ってきたユネスコは子供の郷学として地域の宝物を醸成してきました。ESDという視点で若い世代へどうのように価値を継承するかは自らの活動として重要なものとなります。HULを活用して土地の文脈を活かした学びの提供が可能です。</p>

<p>⑨今年度の事業による直接の結果(アウトプット)及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>① 全国から参加者を誘致する「備中とと道トレニック」の開催 定員60km:350人 120km:150人 計:500人 参加想定:400人</p> <p>② 「笠岡一吹屋 備中とと道トレイルウォーク」開催の可能性を探る 2027年度に4市町合同主催で年2回の開催を検討する 4市町参加で2回の試走を予定</p> <p>③ 子どもも参加できるトレイルラン大会開催の可能性を探る 岡山トレイルラン協会と連携し具体的プランを策定</p> <p>④ 地元行政との連携の可能性を探る 備中とと道トレニックの開催を支援する部署を新たに求める</p> <p>⑤ 地元教育機関との連携の可能性を探る 大学:アプローチ目標9大学 新見公立大学・吉備国際大学・岡山県立大学・くらしき作陽大学 ・倉敷芸術科学大学・環太平洋大学・ノートルダム清心女子大学 ・岡山大学・岡山学院大学など 高校:アプローチ目標5校 矢掛高校・おかやま山陽高校・岡山龍谷高等学校・興譲館高等学校 ・高梁市立宇治高等学校 小中学校:アプローチ目標6校</p> <p>⑥ 地元企業との連携の可能性を探る 目標:60社へアプローチ</p> <table border="1" data-bbox="490 898 1373 1144"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 参加人数の達成度</td> <td>試算に対する割合80%</td> <td>400人</td> </tr> <tr> <td>② 4市町参加の試走</td> <td>試算に対する割合50%</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>③ 4市町に1コース設定</td> <td>試算に対する割合25%</td> <td>1コース</td> </tr> <tr> <td>④ 4市町の合意</td> <td>試算に対する割合100%</td> <td>4市町</td> </tr> <tr> <td>⑤ 2026度の参加</td> <td>試算に対する割合10%</td> <td>1高校・1大学参加</td> </tr> <tr> <td>⑥ 後援・協賛企業</td> <td>試算に対する割合50%</td> <td>30社</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	① 参加人数の達成度	試算に対する割合80%	400人	② 4市町参加の試走	試算に対する割合50%	1回	③ 4市町に1コース設定	試算に対する割合25%	1コース	④ 4市町の合意	試算に対する割合100%	4市町	⑤ 2026度の参加	試算に対する割合10%	1高校・1大学参加	⑥ 後援・協賛企業	試算に対する割合50%	30社																								
評価指標	評価方法	目標																																												
① 参加人数の達成度	試算に対する割合80%	400人																																												
② 4市町参加の試走	試算に対する割合50%	1回																																												
③ 4市町に1コース設定	試算に対する割合25%	1コース																																												
④ 4市町の合意	試算に対する割合100%	4市町																																												
⑤ 2026度の参加	試算に対する割合10%	1高校・1大学参加																																												
⑥ 後援・協賛企業	試算に対する割合50%	30社																																												
<p>⑩今年度に期待される成果・効果(短期アウトカム)及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業参加者 参加者へのアンケートを行いレポートの可能性を問う</p> <table border="1" data-bbox="490 1209 1373 1461"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とと道の価値の訴求</td> <td>アンケート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>とと道の価値の訴求30代以下</td> <td>アンケート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート率</td> <td>アンケート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>アンケート</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>ドネーション</td> <td>寄付@1000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>道の保全・活用に協力したい</td> <td>アンケート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>道の整備ボランティア数</td> <td>新規参加者数</td> <td>10名以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施団体 地元行政・地元教育機関・地元企業への訴求活動</p> <table border="1" data-bbox="490 1526 1373 1745"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地元行政 目標アプローチ数</td> <td>目標の100%</td> <td>4市町</td> </tr> <tr> <td>地元教育機関 目標アプローチ数</td> <td>目標の100%</td> <td>20校</td> </tr> <tr> <td>地元企業 目標アプローチ数</td> <td>目標の50%</td> <td>30社</td> </tr> </tbody> </table> <p>備中地域 4市町が連携し行う全行程のトレイルウォークの準備</p> <table border="1" data-bbox="490 1839 1373 1944"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トレニックの窓口</td> <td>100%</td> <td>体験ツアー</td> </tr> <tr> <td>4市町の合意</td> <td>100%</td> <td>2027年度に開催</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	とと道の価値の訴求	アンケート	70%	とと道の価値の訴求30代以下	アンケート	20%	レポート率	アンケート	70%	満足度	アンケート	70%	ドネーション	寄付@1000	100%	道の保全・活用に協力したい	アンケート	50%	道の整備ボランティア数	新規参加者数	10名以上	評価指標	評価方法	目標	地元行政 目標アプローチ数	目標の100%	4市町	地元教育機関 目標アプローチ数	目標の100%	20校	地元企業 目標アプローチ数	目標の50%	30社	評価指標	評価方法	目標	トレニックの窓口	100%	体験ツアー	4市町の合意	100%	2027年度に開催
評価指標	評価方法	目標																																												
とと道の価値の訴求	アンケート	70%																																												
とと道の価値の訴求30代以下	アンケート	20%																																												
レポート率	アンケート	70%																																												
満足度	アンケート	70%																																												
ドネーション	寄付@1000	100%																																												
道の保全・活用に協力したい	アンケート	50%																																												
道の整備ボランティア数	新規参加者数	10名以上																																												
評価指標	評価方法	目標																																												
地元行政 目標アプローチ数	目標の100%	4市町																																												
地元教育機関 目標アプローチ数	目標の100%	20校																																												
地元企業 目標アプローチ数	目標の50%	30社																																												
評価指標	評価方法	目標																																												
トレニックの窓口	100%	体験ツアー																																												
4市町の合意	100%	2027年度に開催																																												

⑪将来的に 期待される成果 ・効果 (中・長期アウトカム) ※事業が複数の場 合は、事業ごとに分 けて記載	事業参加者 オンラインのフィードバック会議へ参加を呼びかけ、参加する人を増やします。 2025年度:30% 2026年度:40% 2027年度:50%
	事業実施団体 私のまちの宝物として「備中とと道」がユネスコスクールの題材として取り 組まれるようになることを目指します。
	備中地域 ■2つの日本遺産を結ぶ 最終的には、笠岡諸島と備中吹屋の2つの日本遺産を結ぶイベントとして開 催する。魚を保冷バッグに入れてリレーで運び吹屋で食す備中とと道を現代に 再現するイベントを目指します。 さらにそこから派生する、トレイルラン大会や子ども・ユース向け企画の強化、 高校生や大学生が学んだことを活かせるフィールドワークの場として連携活用 します。 全国的なブランド化を目指した広報にも注力します。
⑫事業継続化に 向けた取組及 び事業展開の 予定 (資金確保の 見通し等)	トレニックに関しては㈱イタダキと連携し、できる限り継続します。ト レニックは継続することで、低予算で開催することが可能になります。 また、地元の中でできることは地元で行ったり、4市町の連携の可能性 を同時に探ったりします。 ユネスコでもユースを巻き込んだESDの活動として助成金などが使える ものがあればその可能性も検討して参ります。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
4月	<p>【トレニック】 キックオフミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託・委員会設立（定期的に実行委員会開催） ・行政・警察・関連団体への相談開始 	4市町	12名
5月	<p>地域・関連団体との調整</p> <p>【トレニック】 大会要項の協議、確定 大会ロゴなど基本デザイン、WEB制作着手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 	4市町	12名
7月	<p>【トレニック】 WEB立ち上げ、エントリー募集開始 広報開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 <p>【笠岡ー吹屋備中とと道トレイルウォーク】</p>	4市町 4市町 高梁市宇治	12名
8月	<p>【トレニック】コース調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 	4市町	12名
9月	<p>【トレニック】コース調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 	4市町	12名
10月	<p>【トレニック】運営マニュアル作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 	4市町	12名
11月	<p>【トレニック】 エントリー締め切り コース周辺住民への説明 コース整備・最終試走会</p> <p>【笠岡ー吹屋備中とと道トレイルウォーク】</p>	4市町	12名
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 	4市町	12名
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 <p>【トレニック】開催 運営最終ミーティング 準備・開催・撤収</p>	4市町	400 ～500名
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 <p>【フィードバック会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算書・報告書作成、実行委員会による振り返り ・事業全体の決算書・報告書作成 	4市町	12名
3月	<p>次年度に向けての【フィードバック会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・地元住民・行政・教育機関・企業との連携 		12名